

弘法の聲を齊うせば、宗祖の大理想たる『一天四海皆歸妙法實現の概あくんばあらず、豈覺醒せざるべけんや。

## 衷心のさゝやき

中五 猪口海靜

人は己の微弱と不幸とを知れる時偉大あり、とは泰西のある學者の言葉であるが今の自分には之を真に味ふことが出来得ないのを悲んでゐる、偶々人をして我に求めしめなければならぬのは自分である、我より人に求めてはならぬ、世をして我に求めしめなければならぬのは自分である、我より世に従つてはならない、自分が求めたり従ふたりする時は自分が既に權威を失ふた時である、人をして我に求めしめ世をして我に依らしむる時其處に自分の權威が在りこゝに初めて世を動かすことも人を導くことも出来得やうしかし今の自分は世人の動くまゝに動かされればならないとは實に腑甲

斐なき過ぎる、是れで人を教へやうとか世を導かうと、思ふのは頗る危険なとりきめではあるまいかと、切實に思ふことも時にはあるが、之れが衷心の眞實か偽りか自分乍ら分別が付かぬのである、譬へば人の心を白と黒とに分けて見れば折には白の心を持つこともあるが忽ち黒の心に覆ふはふした文字や言語やに易々馴致され、包藏され、貫通されつゝ、尊い生命に、自ら挺身し躍入してゐながら、自分の所有とすべきことをば、遂に忘るゝは常である、肉を壊り血を迸ばしらせ骨を碎いて、内面の戦闘を経験することなくして、生命のみが向ふから飛んで来て自分の體內に、流れ込むものか、然し縦使流れ込むにしても、遂に之れが自己のものとならずに、行くもの斯の如しの状態で、此の尊い月日を送りつゝあるのではあるまいか。

やれ信仰の論理だ概念だなどゝ、其の取り扱ひ其の弄ぶことの愉快さに肝心の生命をば、胴忘れ

して、それが占領も、獲奪も試みないで、生暖い一種の遊戯化した生活に、墮在する危険に、頻してゐるのであるまいか、縦使愕き叫ぶことがあつても、又何時しか昏睡境に、巻込まれる傾向が、強く有りはせぬだろうか。火によつて暖を取らずして、火の暑さを允諾し、水に觸れずして水の冷さを納得しやうとする、尤も手輕を丈け眞摯を欠き、頗る簡單を丈け洞である、其の事はかり聞いてゐるのと、其の事であつたと、聞くのとは、其の内容に於て、甚だ相違ふことである、要するに概念と云ふものゝみでは、生命の芽は萌さぬことであらう、自分は生死無常と云ふことを、見聞してゐる、又日一日と、死に近きつゝあるも、知つてゐる、又刹那に襲來することも、辨へてゐる、而し乍らまだ頻死の病者に於ける死の痛感に悶えかいたのは、死に就いての問題を、持たない證據である。まだ虚名榮達に憧かれたい氣分は確に潜んでゐる、人は迂つかりすると茶飲話に自己の内面を曝露して、得意がらうとする病魔に、冒されや

うとする傾があるが、眞に獨りの時自己の汚惡不善を、號泣する者は、誠に少ない、或は之で良いのかも知らぬ、而し斯うしたことが、吾々能化者として立たねばならぬものが、否進取的日蓮主義を、宣傳する吾々にしても、折には此の反省も必要ではあるまいか、口には自分の腑甲斐あきを説き、罪惡の我をど、云ふも、まだ死も罪惡も自分には、問題とあつてゐない、殊勝らしげに、朝夕の勤行に、合掌してゐる姿も、口には機械的に讀經し、心は空とぼけてゐるのみか、昨日途で見た若い婦人の事をぞ、頭に畫き見るとは、嗚呼！實に死の痛感をくして、罪の身一夜さへ、哭泣することなくして、死の解決の信や、罪の救ひの慈悲やが、起らうことか、縦使貧の惱みを啣つても、乳飲兒を懷にして、夕餉もなく、今や橋上に立ち、奔馳する水勢を、凝視しつゝある女の惑亂も自分にはこれを知ることが出来ない、社會の裏面には、自分の知らない斯うした悲惨な、或は醜惡なことがらが、如何に多く行はれてゐるであらう

破滅の瀬戸際に臨んで、刹那に、自己に、逼り來たらざれば、眞の信仰の風光に、與かることの出來得ざるものか、何んでも第一線へ人を送つて置いては、後から號令するやうか、不眞面目さではいかか、斯うした問題を所有しないで、否所有すべき機會を突破なして置いて、只信仰の盛氣樓に戯むれやうとする不眞面目さよ！ 切實に其の問題に觸れて眞摯に味はひ、そして聖祖の『一切衆生の異の苦を受くるは、日蓮一人の苦あり』と云ふ氣分に、一寸でもなつて見ることが、出來ぬものなるか、自己の淺間しきまよ、噫！ 徒らに机上の空論のみに囚はれんとするを欲せざれ、夫れ治國平天下何に因つてか生ず、觸れたきものは生命なり、握るべきものは信念ではいかか。』と反省し來つた自分が、今また墮性の命令に逆轉の聲を耳にする、これ何たる心内の矛盾も甚だしい業ではある!!。(完)

## 先づ糧を與へよ

高三 松木 秀月

『法華經の現實主義積極的成佛論は人生に取りて最上無上の教に相異ありません。然し我々には其の成佛論を云々するより前に大きな先決問題があります。それは何ふして其の行くの露命を繋いで行かう歟と云ふ事でありませう。貴所方が説教に演説に常に力説して下さる信仰の道精神的生命の復活、有り難く拜聴致します。去り乍ら其の有り難い説教や演説を聞き感激して歸れば憐れ自分の家庭には親や妻子が外米の残り少なき米櫃を覗いて今晚の糧の不足を告げて居ます。是が西方淨土夢見る教や此世の外に天國を理想境とする教でありますなら私供は其儘死むで阿彌陀様の所若くはゴッドの膝下へも行きますせう。然し貴所方の主張おさる教は未來に成佛せうと思ふたら今生に佛に成て居らねばならぬ。此の世を離れて西方淨土も天國も無いのだ若し在ると云ふ教は架空的の教で